

# 丹精込めてモミジ復活

上越市北本町二の陀羅尼八幡神社(足利浩之宮司)境内で、朽ちる寸前だったモミジ三本が、地元住民の世話でよみがえり、今年も紅葉の盛りを間近にしている。

このモミジ三本は平成十四年当時、三本ともアリの繁殖で根元から腐朽が進み、幹の中も空洞化し、いつ倒れてもおかしくない状態だった。安全のため伐採も検討されたが、地元で塗装店を営む同神社総代の小島清介さん(71)が「モミジの八幡さまのイメージ。切るにはしのびない」と

## 住民が蘇生作業

### 陀羅尼八幡神社で紅葉間近

名乗り。樹木医の相澤紀さんに樹勢診断を依頼。相澤さんの指導を受け、仕事の合間を見ながらボランティアで「蘇生(そせい)」作

業に精を出してきた。腐朽部の除去に始まり、空洞部に木炭を埋め込み、銅板でふたをして補強。不定根を土壌改良も誘導し、

「すぶの素人仕事」

(小島さん)ながら、かいあって七年たった今年も見事な色づきで住民の目を楽しませている。

もう一人の総代・齋藤庄一郎さん(72)は「小島さんには奥さんと一緒に世話をしていただき、今もモミジは健在。ありがたいです」と話している。



今年も元氣なモミジの前で。小島さん(右)と齋藤さん



銅板で補強された幹